

「信州上田学」事業について

1 事業の概要

令和元年度にスタートした「信州上田学」事業は、持続可能な地域づくりを目指して、地域に脈々と受け継がれてきた歴史・文化・自然・風土・産業等を「学ぶ」ことを通じ、地域に誇りと愛着を持ってもらい、シビックプライドを醸成することを目的としている。

地域住民に対しては「住み続けたいと感じられる地域づくり」を、また、地元の学生に対する「この地域を創っていかうとする人づくり」や「上田に帰って来たいと感じる人づくり」、さらに、地元を離れても「地域を思い続ける人づくり」を目指し、①「ライフステージに応じた学びの提供」、②「長野大学での信州上田学講座の実施」、③「上田未来会議の開催」の3つの事業を柱として展開している。

※ 令和元年度実施状況は次頁「資料」のとおり

2 令和2年度 3つの分野ごとの事業内容

事業名 (対象)	事業内容
① ライフステージに応じた学びの提供	
幼稚園・保育園 ・すがだいら保育園 ・上田女短附属幼稚園	自然保育(やまほいく)の実施による「生きる力を育む学び」の普及・拡大
小中学校 ・各小中学校	校長会等の場で概要を説明し、希望校への「地域学」出前講座を実施
高等学校 ・上田千曲高等学校 ・丸子修学館高等学校 他 市内高校	地元事業者等による継続的な出前講座を実施し、地域に貢献する郷学郷就の「地域人」を育成
市民 ・各公民館 等	公民館事業（地域研究講座等）に信州上田学の冠を付与
② 長野大学での信州上田学講座の実施	
長野大学生、 市民(公開講座)	ワークショップや演習などを取り入れ、アクティブな学習プロセスに重点を置いた講座の実施 (上半期・下半期 15回ずつ)
③ 上田未来会議の開催	
高校生、大学生、 地域住民	地域課題の抽出と解決に向け、まちなか中心の開催(4回)に加え、住民自治組織等と連携した丸子・真田・武石などの各地域での出張版未来会議の開催(5回)

信州上田学「事業一覧」(令和元年度 実績)

【1. ライフステージごとの信州上田学(講師派遣等)】

区分	件数	参加者数	内訳(講座内容・講師等)
保育園・幼稚園	1	31人	森あそび・フィールドワーク(講師:やまぼうし自然学校)
小学校(南小4年)	4	110人	「水はどこから(水の浄化法)」(講師:中本信忠氏)
〃(南小5年)		116人	「私たちの食生活と食料生産」(講師:長谷川正之氏)
〃(南小6年)		101人	「上田における戦争と平和」(講師:橋詰一夫氏)
〃(神科小3年)		120人	「蚕の成長、飼育等について」(講師:梶浦善太氏)
中学校(上田三中1年)	1	120人	上田の先史と先人「小河滋次郎博士」(講師:関秀雄氏)
高校(上田高校1,2年)	1	30人	水について「カンボジア井戸P」(講師:中本信忠氏)
公民館(講師派遣)	1	100人	「信州上田学のすゝめ」(講師:市川正夫氏)
公民館(冠付与)	28	3900人	地域を学ぶ各種講座(公民館事業)

4628人

【2. 長野大学での信州上田学講座】

区分	対象	受講者数	内容等
前期「信州学」:15コマ	学生(全学年)	211人	長野県の地理・歴史、社会科学的分析方法などを学ぶ
後期「信州上田学」:15コマ	一般	27人	R2年1月11日に長野大学公開講座グループワーク発表会を開催 ※テーマ:千曲川水産、醸造文化、デザイン、観光など
	学生(1年)	105人	

343人

【3. 上田未来会議(開催内容)】

区分(講師)	会場	参加人数	内容
第1回 6月(中島恵理氏)	上田商工会議所	60人	SDGs地域循環共生圏と地域の未来
第2回 7月(山田崇氏)	まちキャン	40人	地域課題を自ら解決する「人」と「場」の基盤づくり
第3回 8月(間藤まりの氏)	まちキャン	23人	楽しい!から取り組む女性目線の地域課題
第4回 9月(飯盛義徳氏)	パレオ2階	35人	地域づくりのマネジメント〜つながりをつくり創発を生む仕組みづくり〜
第5回 10月(豊重哲郎氏)	まちキャン	25人	地域再生&創生〜行政に頼らない感動の地域づくり〜
第6回 11月(児玉光史氏)	まちキャン	20人	ビジネスを通じて地域課題に関わり続けるには?
第7回 12月(岡田基幸氏)	まちキャン	23人	地域振興、夜明け前〜変化の波頭と一騎当千〜
第8回 1月(富永一夫氏)	まちキャン	14人	人が育つ、人間里山主義
第9回 2月(藤川まゆみ氏)	まちキャン	13人	強くてしなやかな上田のつくり方〜エネルギー編〜
第10回(永山一男氏)…中止	—	—	—
特別企画開催(丸子・鹿教湯)	鹿教湯病院ホール	60人	鹿教湯の未来〜持続可能な温泉地を目指して〜

【合計】

313人

【4. 信州上田学キックオフイベント「シンポジウム」 令和元年5月10日:サントミュージア小ホール】

区分	時間	参加者数	内容(テーマ・講師等)
基調講演	60分	216人	「信州上田学(楽)〜住みたい理由を言えるまちを創る〜」 講師:藻谷浩介氏(㈱日本総合研究所首席研究員)
パネルディスカッション	60分		「住みたい理由を言えるまちを創るためには?」 パネラー6名:藻谷浩介氏、市川正夫氏、小岩井彰氏、 小林一郎氏、間藤まりの氏、土屋陽一市長

<南小学校（6年）>

日時 令和元年8月30日（金）2時間目 9：40～10：25（45分）

会場 上田市立南小学校図工室

参加人数 101人

【上田における戦争と平和 講師：橋詰 一夫 氏（創作民話作家）】



【永井教頭から講師の紹介】

- ・6年生が入学する前に橋詰講師は庁務員として勤務していたとの紹介。
- ・9月10日松代大本営への見学の事前学習になる。
- ・地域に残る戦争遺構を知ってほしい。

まとめ

- ・74年前の戦争の遺構は、地域に残っている。戦争は、人を変え、すべてを壊してしまうものであるが、この地域には、朝鮮人労働者を歓待した史実がある。
- ・松代大本営の見学に際して、では松代での朝鮮人労働者の扱いはどうだったのか、ぜひ聞いてほしい。
- ・現在、不幸にして、韓国との間で「徴用工問題」により国家間の紛争に発展しつつある。
- ・今、戦争を語れる人がいなくなっている現状で、本日の内容や地域に残る戦争遺構から学び、悲惨な戦争を二度と起こさないという気持ちを新たにしてほしい。

<南小学校（4年）>

日時 令和元年9月12日（木）3時間目 10：50～11：35（45分）

会場 上田市立南小学校図工室

参加人数 110人

【水はどこから 講師：中本 信忠 氏（信州大学名誉教授）】



【宮下学年主任から講師の紹介】

- ・水博士として、JICA等で活躍されている信大名譽教授であり、生物ろ過法（緩速ろ過法）の研究者。
- ・6月に、日本水大賞の国際講演賞を受賞された。
- ・17日（火）に染屋浄水場の見学を行う。その事前学習で、染屋浄水場の浄化を30年以上研究する先生から「飲み水のつくり方」を教えて頂く。

まとめ

- ・自然の摂理により、太古から水の浄化が行われてきた。
- ・上田市の染屋浄水場は、96年経ったが、こうした自然のままの浄化法（生物浄化法）を一貫して採用している日本でも稀有の浄水場（市内では、石舟、腰越＝一部のみ）。
- ・近くでは、高崎市の剣崎、若田浄水場。
- ・人間は、水なしでは生きてゆけない。持続可能な水を大切にすること。
- ・この校区（南小）の皆が飲んでいる水は、この染屋浄水場から給水されている。

<南小学校（5年）>

日時 令和元年9月18日（水）3時間目 10：50～11：35（45分）

会場 上田市立南小学校図工室

参加人数 116人

【上田市の農産物の魅力 講師：長谷川 正之 氏（上田市農産物マーケティング推進室専門員）】



【矢崎学年主任から講師の紹介】

- ・講師を本校にお招きするのは、本日を含め3回目となる（銀行員・県職・市職員）。
- ・上田市で、「なないろ農産物」のPRをしている。
- ・『わたしたちの上田市』（小3・4年社会科学習帳）で「農家のしごと」で学んだ農産物を具体的な説明を聞き、地元の農産物を知る。

まとめ

- ・上田市では、様々な農産物が収穫され、「なないろ農産物」と名付け積極的にPR。
- ・上田市は、農産物に適した気象でトップクラスの適地。
- ・上田市の4つの農産物について【外部からの高い評価】
 - ① うえだみどり大根は、テレビで取り上げられ評判を呼び、地元生産が盛んになる。
 - ② 塩田産大豆「ナカセンナリ」は、加工用として地域外事業者から高い評価を得た。
 - ③ ブルーベリーは、健康効果が期待出来ることからさらに力を入れる。
 - ④ ワイン用ぶどうは、丸子や塩田の東山地区が世界基準の産地。21日には、新たに上田地域初のワイナリーが開業。ワイン産業発展、新たな産地化へ変貌する。

<第三中学校（1年）>

日時 令和元年9月11日（水）5時間目 13：40～14：30（50分）

会場 上田市立第三中学校格技場

参加人数 120人

【弱き者の友たれ～小河滋次郎博士～ 講師：関 秀雄 氏（小河滋次郎博士顕彰会副会長）】

【宮下学年主任から講師の紹介】

- ・小河滋次郎博士顕彰会の副会長
- ・小河博士の後輩（早大教育学部卒）で、長年高校教諭を務め、現役の最後は、上田高校で国語科教諭。現在は、野沢北校に非常勤で勤務。



まとめ

- ・山極博士と同様、小河滋次郎博士も、この三中の学区に生まれた。
- ・二人の博士に共通していること・・・決して信念を曲げず、最後までやり遂げる姿勢。

ライフステージ毎の信州上田学【小・中学校での実績内容】

皆もこのDNAを受け継いでいる。これから困難に幾度もぶつかるが、常に前進してほしい。

- ・この講座を契機に、山極博士の生涯の親友である小河滋次郎博士の研究を深めてほしい。

<神科小学校（3年）>

日 時 令和元9年26日（木）3時間目 10:50~11:35（45分）

会 場 上田市立神科小学校

参加人数 120人

【蚕の成長、飼育等について 講師：梶原 善太 氏（信州大学繊維学部教授）】



【青木学年主任から講師の紹介】

- ・信州大学繊維学部で、蚕の研究をされている先生
- ・先日、上田蚕種から600個の蚕種（蚕の卵）を頂き、飼育を始めた。今日は、梶浦教授から蚕の話をお聞きして、しっかりと育てたい。

まとめ

- ・上田市は、かつて「蚕都上田」と言われ、養蚕業が全国でもトップクラスで、たいへん栄えた。
- ・蚕の生糸は、蚕が吐いた瞬間出来る。
- ・生糸は、基本的に色がついている。
- ・蚕の一生を現物や標本で児童に見せ、理解を深める。
- ・これを契機に、蚕についての疑問点等があったら、何なりと聞いて理解を深めてほしい。